

見つけてみよう！ まちなかのユニバーサルデザイン

6・7月に開催したワークショップでは、多様な参加者の皆さんとのユニバーサルデザインを発見するまち歩きを行いました。まちなかで見つけたユニバーサルデザインを紹介します。



より歩きやすく！
道路の工夫

車道と歩道の間には段差がなく、十分な歩道スペースを確保した道路整備を進めています。また、境目に色の違うレンガを敷いて、分かりやすくしています。



外国の人も安心
多機能なバス停

外国人も安心して利用できる多言語による案内表示やQRコードを読み取るとバスの現在位置を把握できる「バスロケーションシステム」が導入されています。



まち歩きを快適に！
6つのどうぞ運動

皆さんに気持ち良くまちなかを歩いてもらうため、賛同事業者の皆さんが、傘を貸し出す「どうぞ」などを行う6つのどうぞ運動に取り組んでいます。



こころのユニバーサルデザイン

【自転車のマナーに気をつけよう】
交通量の多い場所では、周囲の人の安全を意識して自転車は降りるなどの配慮をしましょう

こころのユニバーサルデザイン

【譲り合いの気持ちを大切に】
歩行者も車も、急に飛び出したり、強引に進まないようにしましょう

ちょっと休み…
休憩ベンチ



買い物や観光など、まち歩きの際のちょっとした休憩に利用できるベンチが設置されています。

網目が細かい
グレーチング



グレーチング(側溝)などのふたの網目を細かくすることで、つえの先端や車椅子の車輪などが挟まりにくくなっています。

音でもお知らせ
音声信号



信号が青になった方向によって異なる音を出すことで、目が見えない人も、安心して横断歩道を横断できます。

参加者の声

「会津若松市福祉まつぶ」をご利用ください！

高齢の人や障がいのある人、子ども連れの人など、どんな人でも安心してお出かけできるよう、主な施設の駐車場やトイレなどのバリアフリー情報を掲載した「会津若松市福祉まつぶ」をインターネットで公開しています。

●問い合わせ…地域福祉課 ☎39-1232

お出掛けの前に、調べておくと安心だね！



←福祉まつぶのホームページはこちら



ほんのちょっとした気配りが本当にうれしい

「心のユニバーサルデザイン」という言葉は初めて聞きました。つまり「思いやりの心」のことですね。

目に障がいがある私は、外出も一苦労。そんなとき、「困っていることはありますか？」という温かな声掛けが、すごく助かるんです。例えば信号を渡るとき。一人でも渡ることはできるけど、誰かに付き添いをお願いした方が安心だから。

ほんのちょっと気配りをして声を掛けてみる。それだけで、助かる人がたくさんいますし、みんながうれしい気持ちになりますよ。



一ノ瀬 ヨシさん

視覚障がい者同士で互いに助け合い、他の人の支援も受けて自律を目指す「視覚障がい者のリハビリをすすめる会 あい・つう」代表

多様な人の生の声が聞けて意識が変わった

ユニバーサルデザインの授業で取り組みの内容は知っていました。でも、点字ブロックを利用している人などから直接お話を聞いてみると、配慮してつくったはずのモノが、利用者の立場からは、実は使いづらく感じていたことがあったなど、初めて気付かされることもありました。

自分のことだけではなく、もっと多様な視点から物事を見れたときに、他者への思いやりが生まれるんだと思います。就職してからも、今回学んだユニバーサルデザインの考え方を生かしていきたいです。



門脇 京香さん

会津大学短期大学部でデザインを学んでいる。来春からは、学んでいることを生かして、建築業界への就職を予定している

誰かのために考えること自体が素敵なこと

ワークショップに参加して、実は身の回りにユニバーサルデザインがあふれていたことに驚きました。

ワークショップでは、一人ひとりが自分以外の人のことも考えながら、暮らしやすいまちづくりについて話し合いました。そうしてみんなで考えていると、会場がどこか優しい空間になっていたような気がして…。少しの間でも、他者のことを考えてみることで自分もとても素敵に感じます。一人ひとりのさりげない気遣いで、みんなが快適に暮らせるまちになればいいと思います。



庄司 梓さん

カフェ&デリ・マルク「CAFÉ&DELI・MARC (一箕町竜賀)」店長。「障がいを持った仲間と一緒に働こう」として、障がい者の就労支援も行っている